

製品名: MLH1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82444**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	84.6kDa

抗原情報

遺伝子名	MLH1
別名	FCC2; COCA2; HNPCC; hMLH1; HNPCC2
遺伝子 ID	4292.0
SwissProt ID	P40692
免疫原	大腸菌で発現したヒト MLH1 (AA:381-483) の精製された組み換え断片。

背景

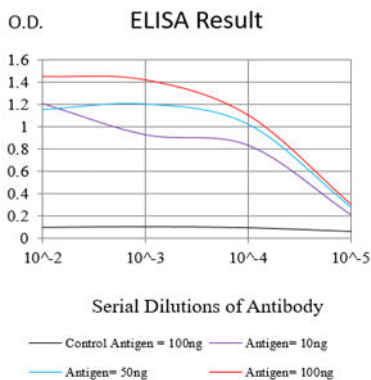
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ミスマッチ修復エンドヌクレアーゼ PMS2 とヘテロ二量体を形成し、DNA ミスマッチ修復系の一部である MutL α を形成する。MutL α が MutS β およびいくつかの補助タンパク質と結合すると、MutL α の PMS2 サブ

ユニットが DNA ミスマッチ近傍に一本鎖切断を誘導し、エキソヌクレアーゼによる分解の入り口となる。この遺伝子によってコードされるタンパク質は DNA 損傷シグナル伝達にも関与しており、DNA ミスマッチ修復タンパク質 MLH3 とヘテロ二量体を形成し、減数分裂に関与する MutLγ を形成する。この遺伝子は、遺伝性非ポリポーシス大腸癌（HNPCC）において高頻度に変異する遺伝子座として同定された。[RefSeq 提供、2017年8月]

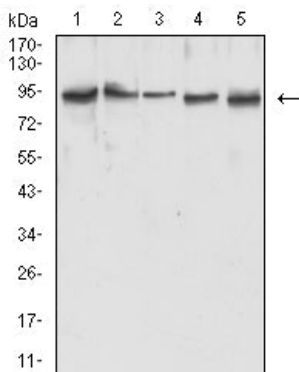
研究分野

-

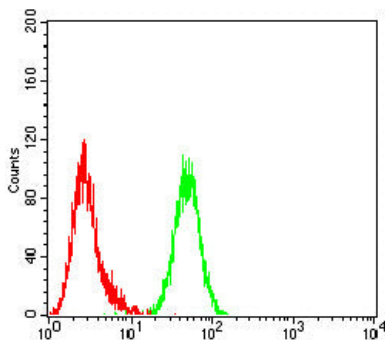
画像データ



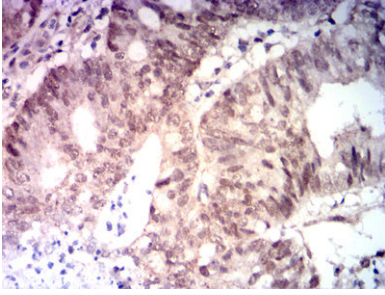
黒線: コントロール抗原 (100 ng) 紫線: 抗原 (10 ng) 青線: 抗原 (50 ng) 赤線: 抗原 (100 ng)



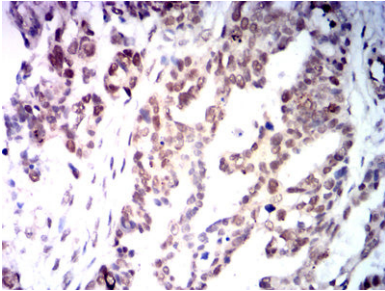
Hela (1)、Jurkat (2)、A431 (3)、HepG2 (4)、および MCF-7 (5) 細胞溶解物に対する MLH1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



MLH1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



MLH1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析。



MLH1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト卵巣癌組織の免疫組織化学分析。